

平成 30 年度男女共同参画センターはあもにい 第 2 回運営審議会 議事録

1. 日時 平成 31 年 2 月 14 日 (木) 午前 10:00～
2. 場所 熊本市男女共同参画センターはあもにい 4F 会議室
3. 出席者
運営審議委員 (7 名)
石井美代子委員、井手志保委員、伊藤一敏委員、坂口京子委員、那須田委員、広渡純子委員、八幡彩子委員 (五十音順)
オブザーバー 熊本市 市民局 市民生活部 男女共同参画課 主事 桑原孝徳
事務局 代表企業 A 尾池千佳子 (九州綜合サービス株式会社代表取締役)
上村浩二 (九州綜合サービス株式会社専務取締役)
構成企業 B 入杉三久 (熊本産業文化振興株式会社常務取締役)
河野正治 (熊本産業文化振興株式会社総務部長)
館長：坂本ミオ (有限会社ミュージックプランニング取締役副社長)
副館長：梅田勝也
総務管理課：杉卓倫、大久保章
企画事業課：伊井純子、内田美香、田中美帆、村上雅子
維持管理課：安藤陽介
4. 会次第および議事内容
 - (1) 開会
 - (2) 代表あいさつ (はあもにい管理運営共同企業体代表 尾池千佳子)
 - (3) 開会あいさつ (館長：坂本ミオ)
 - (4) 審議委員および出席者紹介
 - (5) 審議
 - 議題 1 はあもにい管理運営状況報告
利用状況報告
 - 議題 2 平成 30 年度実施事業について
 - 議題 3 平成 31 年度事業方針、事業計画について
 - (6) 閉会あいさつ (副館長：梅田勝也)

議題1・議題1についての質疑応答

議題1

八幡: 来館者数は、はあもにいがさまざまな方から親しまれて活用されていることの一つの目安となると思いますが、ほぼ増加傾向になっており、いろいろな事業のご努力のバロメーターとなるのではないかと思います。

情報資料室は、昨年度が非常に好調だったため、目標の達成率からみると今年度は割と低めの数値になっている。それから駐車場の目標値は、前年度に比べ高い設定となっていますが、今は地球規模での環境の問題もあり、必ずしも駐車場利用状況が増えることがいいのかどうかと思いますが、そのようなことに関してもご意見等をちょうだいできたらと思います。

那須: 数だけを見て内容を評価するという事は非常に難しい部分があるので、一点気になる点を質問します。情報資料室の貸し出し冊数が、昨年に比べ若干少ない数字が出ています。例えば蔵書予算がとれなくて蔵書が増やせなかったとか、興味のある本が置けなかったなど、貸し出し冊数低下の要因、蔵書予算の変化などがあったのかを教えてください。

坂本: 予算の変化は特にありません。減っている原因の検討を現在行っている最中です。情報資料室は男女共同参画に係るものを集めていて、一般的な図書館とは違うということ踏まえた上で一番力を入れているのは、講座のときに関係のある図書を一覧表にして受講生にご案内し、当日情報資料室に並べて利用しやすくすることです。それ以外に、一般の方にはお子様のご利用も多いので、絵本やその季節にあった本の紹介などを行っているが、なかなか数字が上がってこないのが現状です。現在、情報資料室活性化のプロジェクトを取り組んでいる最中です。ぜひ皆様にお気付きの点などを教えていただけたらと思います。

八幡: ご検討いただいているということで。本を増やすとスペースの問題なども出てきますが、いかに使いやすく効率的な空間にさせていただけるかということが工夫のしどころだと思います。是非よろしく願いいたします。

駐車場の件ですが、駐車台数が減っているのは見方によれば、エコへの配慮ととらえることもできますが、必要な時に必要な駐車台数が確保されているのかが気になります。

井手: 有料駐車場のことで質問です。八幡先生がおっしゃったようにエコへの配慮ということは良いと思うが、有料駐車場なので、はあもにいの大事な収益の部分でもあると思います。どうバランスをとっているのか。中央自動車学校の隣の駐車場は無料ですが、そちらの案内もされつつ減っているのですか。

上村: 昨年、サンライフが工事で休館になった時期がありました。そのことが今年度の、駐車場利用者減の大きな理由ではないかと思います。

広渡: はあもにいの存在が少しずつ知られるようになってきたと思います。来館者はこちらから提供しているプログラムで来館される方も入っていると思いますが、近くの方も、はあもにいが何をしているのか、どういうことをする会館なのか、もう一つわからないという意見があると以前申し上げました。プログラムだけではなく、はあもにいへ足を運んでいただくために、ホールの活用にも力をいれていただきたい。

八幡: 私の大学で学外の講師を呼ぶイベントがあり、前館長の藤井パレア館長においでいただきました。その時「はあもにいとパレアどっちを知っていますか」と学生に尋ねたところ、はあもにいの方が認知度が高かった。パレアは魅力的で便利な場所にもあるにも関わらず、男女共同参画センターという側面の認識が十分でなかったかもしれないが、6:3の割合でパレアのことを知らなかった。学生の知名度は、大学が黒髪の地にあること、県外出身の学生が半数いるということも影響しているかも知れませんが、はあもにいのほうが認知度がありました。機会があれば、大学へのPRをより行っていただきたい。

坂本: 知名度に関してですが、若い方になかなか知ってもらえないということで、出前講座をルーテル学院大学、高校などに行きましたが、出前講座の折には、冒頭にどのようなことをはあもにいがやっているかの説明をしております。また、はあもにいで行っている各講座の冒頭にも、初めて来たかをお尋ねして、詳しくはあもにいについて話をして周知に努めているところです。

議題 2・議題 2.3 についての質疑応答

議題 2.3

八幡:今年度の事業、来年度に向けてのプログラムの編成方針について盛りだくさんのお話をいただきましたが、やはり、はあもにい運営に関われるようになって数年が経つということで、非常に年々専門性を高められ、こういった企画に取り組んでいらっしゃるのを痛感しました。いろいろなご感想、ご意見、気になることなどを委員の皆さんに1人ずつご発言いただきたい。今日は、熊本市の男女共同参画課からも参加していただいていますので、ちょうど市民意識調査もまとまったということですので、こうした市の調査も踏まえて、最後にお話をお伺いしたいと思います。

石井:たくさんの内容をお聞きしました。審議委員になりまして2年が経ちますが、本当にやっとはあもにいの役割がわかってきました。啓発の時間を講座の最初にきちんと毎回毎回ご説明されていることに敬服しました。企画大賞を取られたことも、本当にとっても素晴らしいことだと思います。熊本地震を経験し、大変な苦労をされたことを力に持っていったこと。そこから派生して防災出前講座、防災ハンドブックをやっていることなど、とても充実したことをされていると思いました。それぞれの研修を受けて専門性を高める意識の高さを感じました。毎回毎回このような大きな事業を充実させるのはマンネリ化もあるなか大変だと思いますが、この路線を続けられるといいと思います。男女共同参画から、よい町を作ろう、一人一人の意識の高さを高めようという姿勢、本当に明確に表れた企画になっていると思います。また31年度の実施方針も楽しみです。

一つ気になったのが、DV のこともたくさんありますが、若年層、中学高校でも問題になっている SNS の課題が出ていないということが気になりました。市の計画のもと事業をしていくのはとても大変だと思いますが、職員さんの専門性の高さに敬服しております。

那須:石井委員からも SNS のことがありましたが、例えばネット被害によって、想定されなかったさまざまな被害に対する防止対策も大事だと思っています。今紹介された分野も多岐に渡り、毎年毎年磨きがかかっていると思います。その上でお尋ねしたいことがあります。

熊本市の指定管理として、色々な工夫をされていることと思いますが、例えば平成30年の中で決まった管理料、財政が良ければもっとできたこと、やりたかったこと、そもそもの部分でお尋ねしたい。出前講座で担当職員のインフルエンザによる延期の件がありましたが、補う職員がいて2名体制で防災講座ができていたら、市民や団体の皆様に応えることができたと思うのですが。それだけに限らず、私も議会で発言できる立場ですので、はあもにいの皆様がもっとやりたいこと、経営の土台の部分で感じられる部分があれば、率直にご意見いただけたらと思います。

坂本:どこの企業でも同じだと思いますが、そのマンパワーでどれだけ力を発揮できるかを

まず向上させないといけませんので、現在のスタッフの数での力を上げていき、同じ人数でよりいい仕事、より多くの仕事をと、努めているところです。具体的なところでは、出前講座についても伊井が研修に行き、来年度からは、2人がメイン講師をできるような体制にしているところです。また、企画事業の職員は、田中の講座に必ず一人ついていき、全員が勉強をしています。

八幡：講座の中にも、キャリアカウンセラーの資格をお持ちの職員さんが入っています。こちらの会館の取り組める幅も広がり、効率的になっているのではないかと思います。

坂口：新しいことがいくつも出ていると思いながら話を聞いていました。その中でダブルケアという言葉が出たのですが、実際はトリプルケアの時代になっているのではないかと感じています。介護と子育てだけではなく、子育てでも病気や障がいを持っているお子さんやご自身が病気、介護も1人だけではなく2人、3人という形でケアをしなくてはいけない時代になってくると思うので、その部分のサポートや支援体制というのを男女共同という視点でお願いしたいと思います。もう一つLGBTを私はよく知らなくて、子育てサークルの中で私はトランスジェンダーですとカミングアウトされた方がいらして、皆さんで話し合う機会になったのですが、なかなか触れることがない部分で、その方が実際は虐待を受けていることもあったのですが、現在は結婚され子供さんもいて精神的に落ち着いていて、自分の経験が何か役に立つことができないかと。そういう方をお繋ぎできたらと思いました。

質問は一つ、ユニバーサルマナーという言葉は初めて聞いたので、何か教えてください。

情報資料室の件ですが、最近本をテーマにしたイベントに興味があります。読書会といって1冊の本をそれぞれがどう思ったかを話し合うワークショップ、それぞれが1冊持ち寄って紹介するワークショップ、ホテルが本屋になっているような箱根本箱というホテル、福岡でも泊まれる本屋、猫の本しかない本屋、お泊りぬいぐるみというぬいぐるみを本屋に泊めて、ぬいぐるみが選んだ本に触れさせる、ちょっとしたかわいい仕掛けをしている本屋さんもあります。そういった本をテーマにしたいろいろなものがあるので、情報資料室でも、男女共同参画をテーマにした本などを活用した何かしら少人数の企画ができるのではないかと思います。

高校生のDV講座はぜひ続けてほしいと思います。ここが入り口で危険や判断ができるようになると思いますので、若年層、大学生、高校生に対する男女共同参画とDV問題、社会的部分を考える機会を發揮していただけたらと思います。

八幡：坂口委員には、私たちにはないご意見、アイデアをいただきありがとうございます。読書会などの企画もおもしろいですね。そのあたりも含めまして、新しい用語の説明もぜひお願いいたします。

田中：ユニバーサルマナーについてですが、実は平成 28 年 1 月に一度行っておりました、いわゆるビジネスマナーではなく、高齢者、障がい者に対する、適切なサポートを学ぶマナー検定になっております。私も受けましたが、3 級、2 級、と 1 日で受けられ、3 級は受講者全員認定証がもらえるのですが、2 級は車いす対応とか視覚障がい者がどう見えるのか、高齢者の身体を体験するためにおもりをつけて階段を昇ってみてどうサポートするかなど、実践も含めて学ぶ講座です。熊本でもハンドボールなど大きな国際大会があります。いろいろな国の方が入ってくるため、そういう方々に対してもいろいろな対応ができるようにということを見据えて、次年度の資格講座に予定しております。

八幡：情報資料室の活用の件も検討を進められていうことでしたので、ちょうどしたアイデアもご参照いただけたらと思います。LGBT の件に関しましては、私は今、附属特別支援学校に関わらせていただいておりますが、去年はそうした面への関心が高まった年だったように感じます。うちの学校でも職員向けの研修、子どもたち向けの研修も行い、そういった相談が学校にあったときに受け入れられる体制を整える研修を行っています。

田中：市からも、LGBT などの性的マイノリティサポートハンドブックが作成されていますので、ご参考ください。はあもにいの支援グループにも今年度新たに、「くまにじ」というグループが加わり、男女共同参画週間ではパネル展示も行いました。皆さんの身の回りにも決して特異なことではなく、もしかして隣にいる人がそういったことで悩んでいるかもしれないなど、そういったことを呼びかけるものをいろいろ発信していますのでご参考ください。

井手：ずっとこういった講座が年間を通じてあっているということだとか、これからこういう講座があるのだと楽しみに見させていただいて、学生さんたちも沢山参加されていると思いました。はあもにいのことを学生により周知していただきたい。はあもにいの facebook は見たことがありますが、最近の若者は Twitter、インスタグラムなどを使っているので、はあもにいのホール催事、講座の案内など、こちらの SNS の活用はできないか。ホームページだと、はあもにいという検索の手間があるので、Twitter はツイートしたり、リツイートしたりで拡散されるので、こういうものを活用していただきたい。

田中：Twitter、インスタグラムは視野に入れておりますが、今年度、人員が入れ替わったため、まず体制を整えるということで、今年度はそこまでいきませんでした。先ほど申し上げましたが、はあもにいでは男女共同参画の 4 コマ漫画などをはあもにい通信で掲載しておりますが、インスタグラムでも、そうしたマンガなどが“バズる”といって一気に情報が広がるという現象もあります。取り入れたいというところもありますが、ただ私たちが市の公共施設としての発信というところを忘れてはいけないと思っております、情報や使う言

葉などに気をつけないといけません。そういった体制も見据えながら、頂いたご意見も参考にしながら進めていきたいと思えます。

伊藤：貴重なご意見を頂きありがとうございます。私が今感じていることは、日本の総人口は8千万になる。年齢層は7割が80歳以上になる。若年層はほんのわずか。若年層の人たちがいかに高齢者を支えることができるか不安です。どういう対策を立てて体制を整え、国を盛り上げていくかを男女共同参画と協力していく上で大事だと痛感しています。

八幡：なかなか大きい問題を投げかけていただきました。ご高齢の方もこういった問題にお力添えをいただき、まさに男女共同参画推進の重要な役割を担っていただきながら、その先頭役、旗振り役に伊藤委員になっていただきたい。

伊藤：黒髪校区も5000人の高齢者の一人暮らしがいます。それをどうして見守るか、自治会、民生委員だけでは目が届かない。孤独死をなくすためには、隣近所との連携が必要。個人情報があるので、家族調査が自治会にあるのだが公表できない。今のところ孤独死は起きていないが、これからそういったことが起きないか心配しているところです。

八幡：事業計画2の社会参画支援事業の両立支援の一つに、家庭生活や地域活動など仕事以外の生活支援の参画支援を目的とした講座とありますが、先ほどの地域の見守りも含めて、リーダーを養成する講座なども行っていただけたらと思えます。

広渡：本当に男女共同参画センターならではのプログラムでもありますし、現実の問題と直結したニーズの高いプログラムの提供もされている。本学にも出前講座をしていただいているが、本来学校がしなくてはいけないことでもありますが男女共同参画センターから発信していただけることに意義があり、感謝しています。

最後にひとつだけ、企画大賞を受賞したことも、防災ハンドブックにつなげるということも期待しております。熊本地震のことを話す機会があり、女性の視点というところから話す機会がありまして、はあもにいのことを話すと皆とても興味を持たれます。

熊本市：男女共同参画の基本計画の素案の概要版と、こちらの市民意識調査の報告について説明します。第1次基本計画が3月をもって計画期間が終了となります。4月からの第2次基本計画の素案を作っております。その素案について市民の意見として、パブリックコメントを1月後半から2月18日まで募集しております。基本的考えとしては、第1次基本計画のビジョンを継続しながら、新たに発生した課題、熊本地震の経験をもとに防災復興体制の確立、性的マイノリティの方への支援、ダブルケアの対応も新たに盛り込む予定です。

市民意識調査は、昨年5月に熊本市民を対象に無作為に2000人を抽出し、市民の意見

を聴取するために実施しました。意識調査の結果は、内容、課題などを審議会で審議し、第2次基本計画の策定に盛り込むための基礎資料となります。報告書全体については、男女共同参画課で保管しています。

八幡：来年度に向けて、基本計画が18の具体的施策になり充実し幅広くなった。第2次計画の策定の新たな課題が上がっておりますが、この6つの方針に、はあもにいは沿っているのではないかと思います。テレワークの推進が働き方改革へどう絡んでいくかは、この辺りのワークライフバランス、働き方改革など、今後行政と連携して充実していただきたいと思えます。今年度実施された事業でも、熊本の矢嶋楯子さんを取り上げていたが、内容も熊本の地域性を大事にすることも意味があることだと思います。そういう事業も毎年1回取り上げていただきたいというご要望を1点お願いいたします。